



**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

**2014年度（2015年3月期）  
第3四半期 決算説明会**

2015年1月30日  
セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2015. All rights reserved.

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

## ■ 2014年度業績開示について

---

2014年度からIFRSによる業績を開示

(実績ならびに予想数値はIFRS)

比較対象となる2013年度実績値もIFRSに置き換えて表示

※ 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

2

## ■ IFRS導入について

1) 2014年度 第3四半期決算

2) 2014年度 業績予想

## 決算ハイライト (9ヶ月累計)

(億円)	2013年度		2014年度		増減額	増減率
	累計	%	累計	%		
売上収益	7,551	-	8,148	-	+596	+7.9%
事業利益	765	10.1%	854	10.5%	+88	+11.6%
営業利益	705	9.3%	1,106	13.6%	+401	+56.9%
税引前 四半期利益	704	9.3%	1,126	13.8%	+421	+59.8%
四半期利益	427	5.7%	906	11.1%	+478	+112.0%
EPS	237.93 円		505.77 円			
換算 レート	USD	99.39 円	106.87 円			
	EUR	132.23 円	140.30 円			

### ■ 2014年度 第3四半期までの9ヶ月累計

- 売上収益は、8,148億円、
- 事業利益は、854億円、
- 営業利益は、1,106億円、
- 四半期利益は、906億円。

## 決算ハイライト (第3四半期決算)

(億円)	2013年度		2014年度		増減額	増減率
	3Q実績	%	3Q実績	%		
売上収益	2,838	-	3,019	-	+181	+6.4%
事業利益	430	15.2%	345	11.4%	-84	-19.7%
営業利益	401	14.1%	320	10.6%	-80	-20.0%
税引前 四半期利益	409	14.4%	320	10.6%	-89	-21.9%
四半期利益	228	8.0%	249	8.3%	+20	+9.1%
EPS	127.00 円		139.13 円			
換算 レート	USD	100.46 円		114.54 円		
	EUR	136.69 円		143.07 円		

### ■ 2014年度 第3四半期の実績

- 売上収益は、前年同期比 181億円増収の 3,019億円、  
事業利益は、84億円減益の 345億円、  
四半期利益は、20億円増益の 249億円。

## 第3四半期 業績のポイント(社内計画比)

- SE15後期 新中期経営計画は着実に進展
- 円安の影響などにより売上収益は上回るも、  
情報関連機器セグメントの利益減により事業利益は下回る

### 情報関連機器セグメント

#### インクジェットプリンター

- インクカートリッジモデル本体数量は、日本市場の縮小および先進国の価格競争激化により 減少
- 消耗品、大容量インクタンクモデル、商業プリンターは、ほぼ計画線
- 円安に伴う本体の製造コスト上昇
- 第4四半期の拡販などのため、本体の一時的な製造出荷台数増



### ■ 第3四半期における業績のポイント

- 10月31日に開示した下期業績予想の事業利益540億円のうち、そのベースとなる社内計画では、第3四半期が、おおよそ3分の2となる約360億円の前提。
- 新中期経営計画が着実に進展する中、円安の影響などにより、会社全体では、売上収益が社内計画を上回ったものの、情報関連機器の利益減などにより、事業利益は前回予想を下回った。
- 情報関連機器では、インクジェットプリンターで、インクカートリッジモデル本体の売上が、日本市場の縮小や先進国での価格競争激化の影響などに伴い想定より減少したものの、消耗品および大容量インクタンクモデル、商業プリンターが、ほぼ想定通りの売上を確保し、また円安の影響もあり、売上収益は、おおむね社内計画通り。
- 一方、事業利益は、円安に伴うインクジェットプリンター本体の製造コスト上昇や、第4四半期の拡販およびフィリピン港湾能力の問題に対応したインクカートリッジモデル本体の製造出荷台数増加などにより、社内計画を下回った。

## 第3四半期 業績のポイント(社内計画比)

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

### 情報関連機器セグメント

#### ビジネスシステム

- SIDMは欧州新興国が低調、POS関連製品は一部客先が受注減ほか

#### ビジュアルコミュニケーション

- プロジェクターは、エントリー機が好調に推移し  
販売数量で四半期記録を再更新



### デバイス精密機器セグメント

#### マイクロデバイス

- 水晶における民生向け需要の減少、半導体は計画線

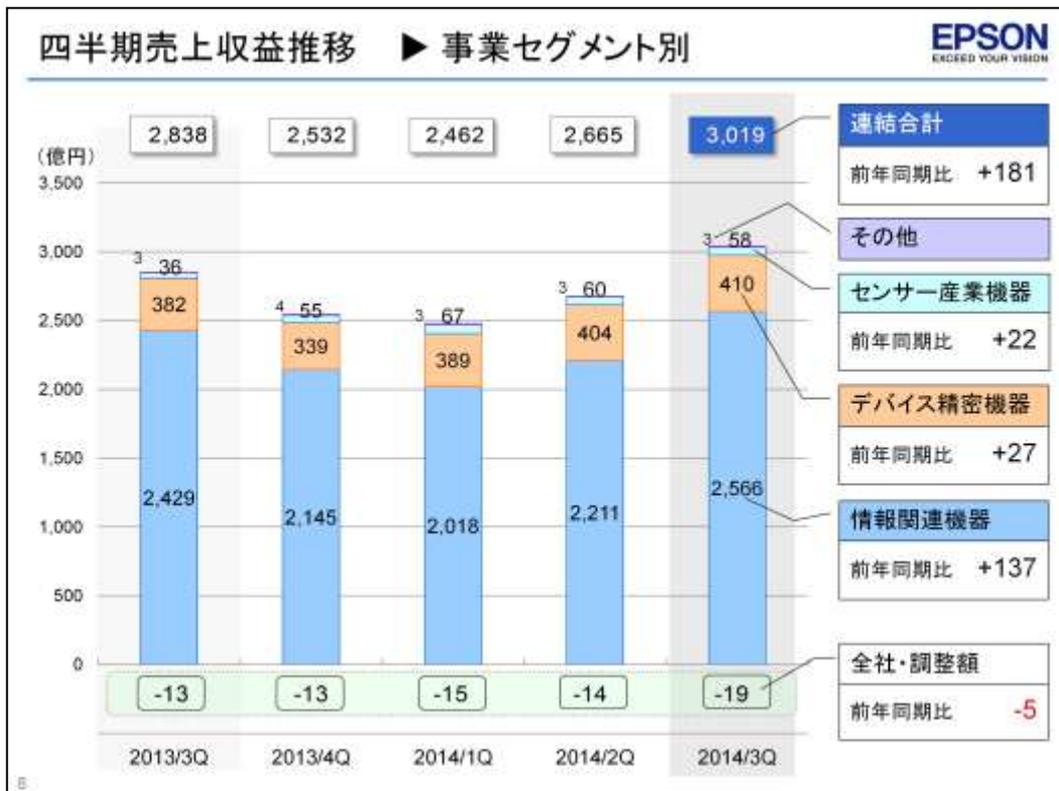
#### プレジジョンプロダクツ

- ウォッチはブランドの高付加価値モデルを中心に好調



## ■ 第3四半期における業績のポイント

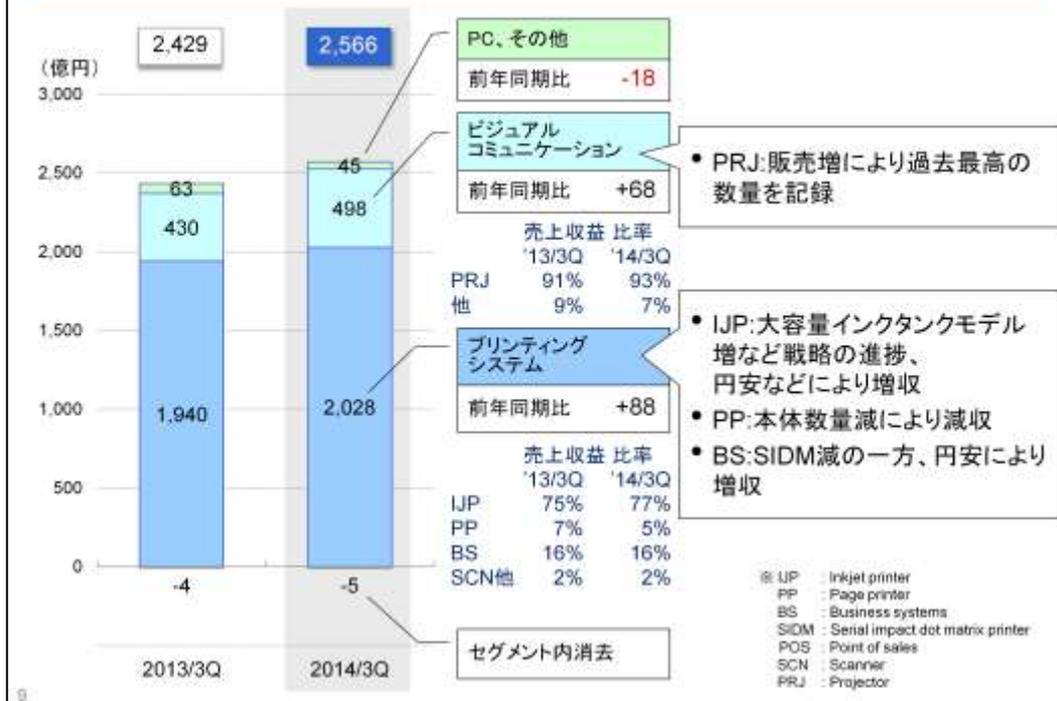
- ビジネスシステムは、  
中東やアフリカなど欧州管轄の新興国におけるSIDMの販売減、  
および一部客先向けのノンレシート用POS関連製品の受注減など  
販売数量が減少したものの、  
円安の影響により売上収益は社内計画を上回った。  
一方、事業利益は、社内計画通り。
- ビジュアルコミュニケーションは、円安の影響に加え、  
プロジェクターのエントリー機などが好調に推移したため、  
四半期の販売数量が本四半期も過去最高を更新し、  
売上収益は社内計画を上回った。  
事業利益は、モデルミックスの変化により社内計画通り。
- デバイス精密機器は、  
マイクロデバイスが、水晶で民生向けの売上が減少したものの、  
半導体を含む事業全体で円安の影響もあり、  
売上収益、事業利益ともに社内計画を上回った。
- プレジジョンプロダクツは、  
ウォッチにおいて売上収益がほぼ計画通りに推移したが、  
ブランド品の高付加価値モデルが好調だったことから、  
事業利益は社内計画を上回る結果となった。



■ 事業セグメント別の 四半期 売上収益推移

- 前年同期との比較では、  
情報関連機器は、137億円の増収、  
デバイス精密機器は、27億円の増収、  
センサー産業機器は、22億円の増収。
- なお、当四半期における売上収益の為替影響は、  
情報関連機器を中心に、  
前年同期比で約211億円のプラス影響。
- センサー産業機器の第3四半期 売上収益は、  
インダストリアルソリューションズが、円安の影響に加え、  
ロボットの中国向けなどで好調な受注を維持し、  
また、センシングシステムでは、新製品の投入を進めて  
売上を増加させたことで、セグメント全体で増収。

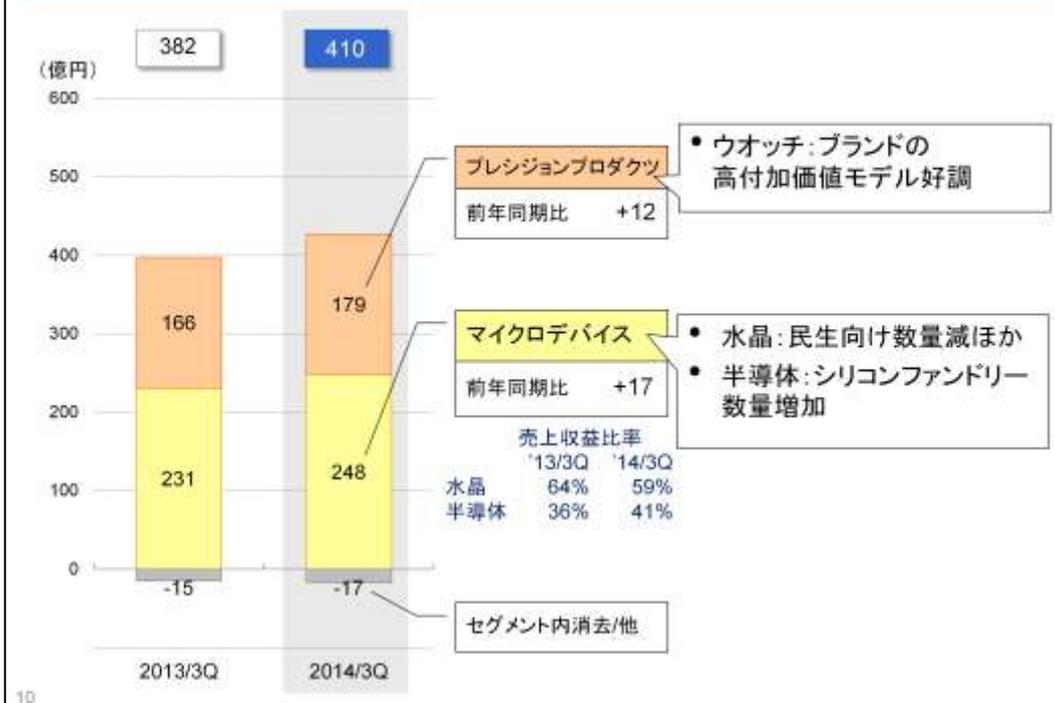
## 四半期売上収益比較 ▶情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器事業セグメントの第3四半期売上収益

- プリンティングシステムは、88億円の増収。
- インクジェットプリンターは、  
インクカートリッジモデルにおける日本市場の縮小や、  
先進国の価格競争激化の影響を受けたものの、円安の影響に加え、  
大容量インクタンクモデルの販売数量の大幅増など、  
戦略を着実に進捗させ、事業全体で増収。
- ページプリンターは、  
日本市場の低迷に伴う販売数量減などにより、減収。
- ビジネスシステムは、  
中国における徴税特需分の一巡などによるSIDMの販売減などが  
あったが、円安の影響により増収。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターにおいて、  
円安の影響に加え、エントリー機などの好調により販売数量が  
四半期記録を再更新し、68億円の増収。

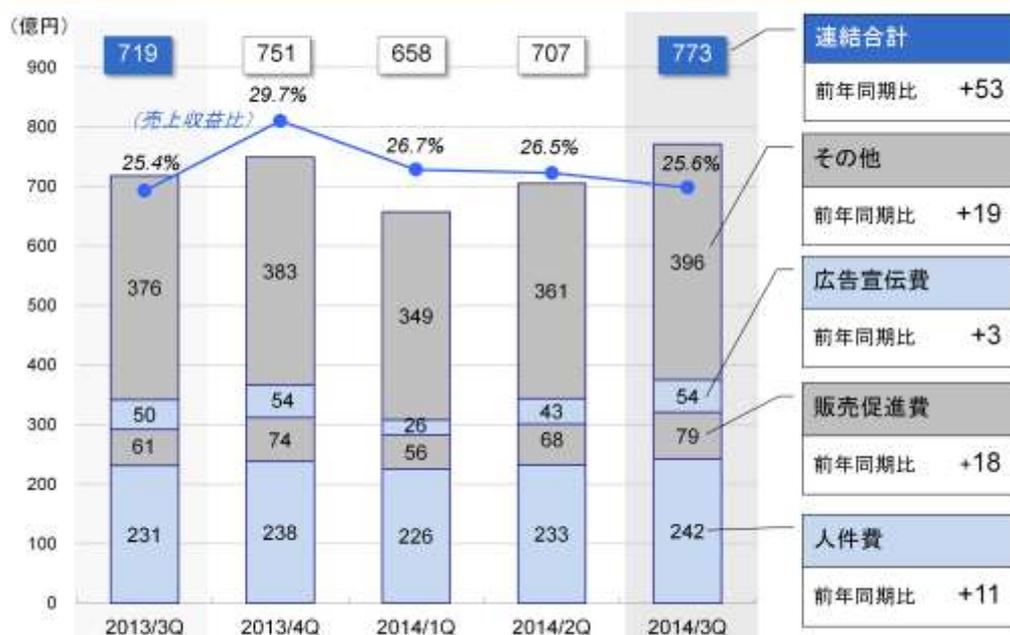
## 四半期売上収益比較 ▶デバイス精密機器セグメント



### ■ デバイス精密機器事業セグメントの第3四半期売上収益

- マイクロデバイスは、水晶において民生向けを中心にした数量の減少とプライスエロージョンの進行があったが、円安の影響に加え、半導体においてシリコンファクトリーを中心に数量が増加し事業全体で増収。
- プレジジョンプロダクツは、ウォッチが、アストロン、ソーラー電波などブランド品の高付加価値モデルが好調に推移し、増収。

## 四半期販売費及び一般管理費推移



11

### ■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

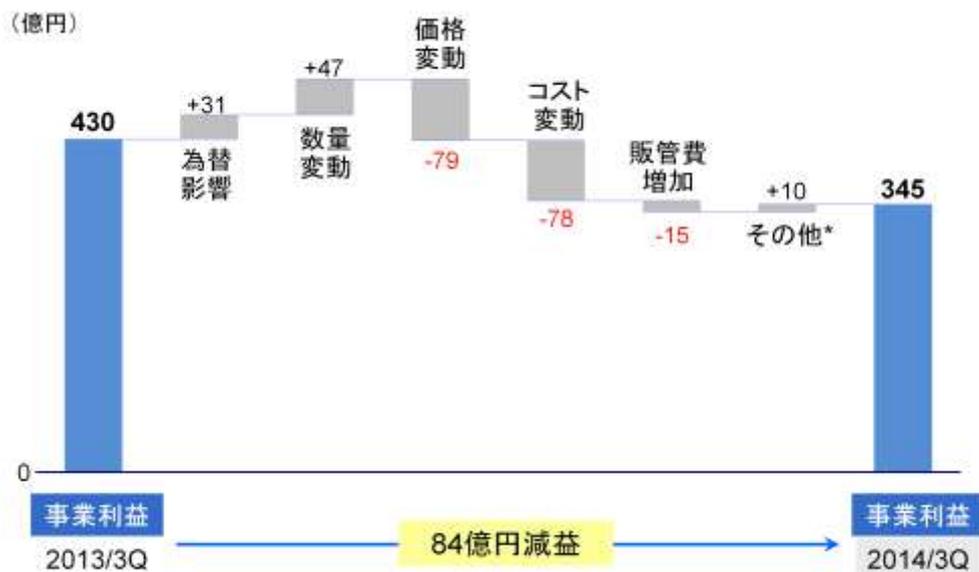
- 第3四半期の販売費及び一般管理費は、円安による円換算費用の増加とともに、業績向上にともなう人件費の増加、先進国の大容量インクタンクモデルおよびスマートチャージなど、新規領域のプロモーション活動の強化などによる広告宣伝費ならびに販売促進費の増加、フィリピンの港湾能力問題への対応のため航空輸送の増加などにより、前年同期に対し増加しているが、売上収益に占める販管費の比率は、前年同期とほぼ同じ水準。



### ■ 事業セグメント別の四半期事業利益推移

- 第3四半期は、円安により、会社全体で前年同期比 約31億円のプラス影響があったものの、販促費用、減価償却費、人件費などの固定費の増加に加え、情報関連機器が減益となったことから、連結合計で84億円の減益。
- 情報関連機器は、前年同期比 104億円減益の 422億円。
- インクジェットプリンターは、売上収益は増収となったものの、インクカートリッジモデル販売拡大のための本体製造出荷台数の増加や、円安に伴う本体製造コストの上昇、および先進国における大容量インクタンクモデルやスマートチャージのプロモーション活動の強化などによる固定費の増加などにより、減益。
- ビジネスシステムは、SIDMなどの販売数量減少にともない減益、ビジュアルコミュニケーションは、エントリー機の増加によるモデルミックスの影響などにより、前年並み。
- デバイス精密機器ならびにセンサー産業機器は、売上収益が増収となったことで、両セグメントともに増益。

## 事業利益増減要因分析



\* 全社費用セグメント及び各セグメントにおいて類似商品同士の比較に適さない商品・事業の増減の総計

13

### ■ 事業利益の前年同期比の要因分解

- 2013年度 第3四半期の事業利益 430億円に対し、円安による為替の影響や、大容量インクタンクモデルの大幅増加など数量変動で増益要因があったが、プリンターやプロジェクターにおける競争激化などによる価格変動、モデルミックスおよびインクカートリッジモデル本体の製造数量増加などによるコスト変動、プロモーション活動強化による販管費増加などが減益要因となり、四半期事業利益は 345億円。

## 財政状態計算書主要項目推移



14

### ■ 財政状態計算書の主要科目

- 資産合計は、  
棚卸資産の増加に加え、  
現金及び現金同等物、ならびに売上債権及びその他の債権の増加などにより、  
前期末に比べ1,164億円増加。
- 棚卸資産は、  
主要因である円安による在庫評価金額の増加に加え、  
主にインクジェットプリンターの国内市場の販売減による在庫増、  
第4四半期の拡販とフィリピンの港湾能力問題に対応した  
インクジェットプリンターとプロジェクターの計画的な在庫積み増しなどにより、  
増加。

## 財政状態計算書主要項目推移

### 有利子負債・有利子負債依存度



### 親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率 (自己資本・自己資本比率)



\*有利子負債・リース負債を含む

## ■ 財政状態計算書の主要科目

- 有利子負債は、  
社債の償還などにより、前期末に比べて 151 億円減少し、  
総資産の有利子負債依存度は 20%まで減少。
- ネット有利子負債は、前期末から339億円減少し、  
248億円のネットキャッシュ。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、  
当期の業績などにより、前期末に比べて 1,259億円増加し、その結果、  
親会社所有者帰属持分比率は 47.6%。

1) 2014年度 第3四半期決算

2) 2014年度 業績予想

## 2014年度業績予想



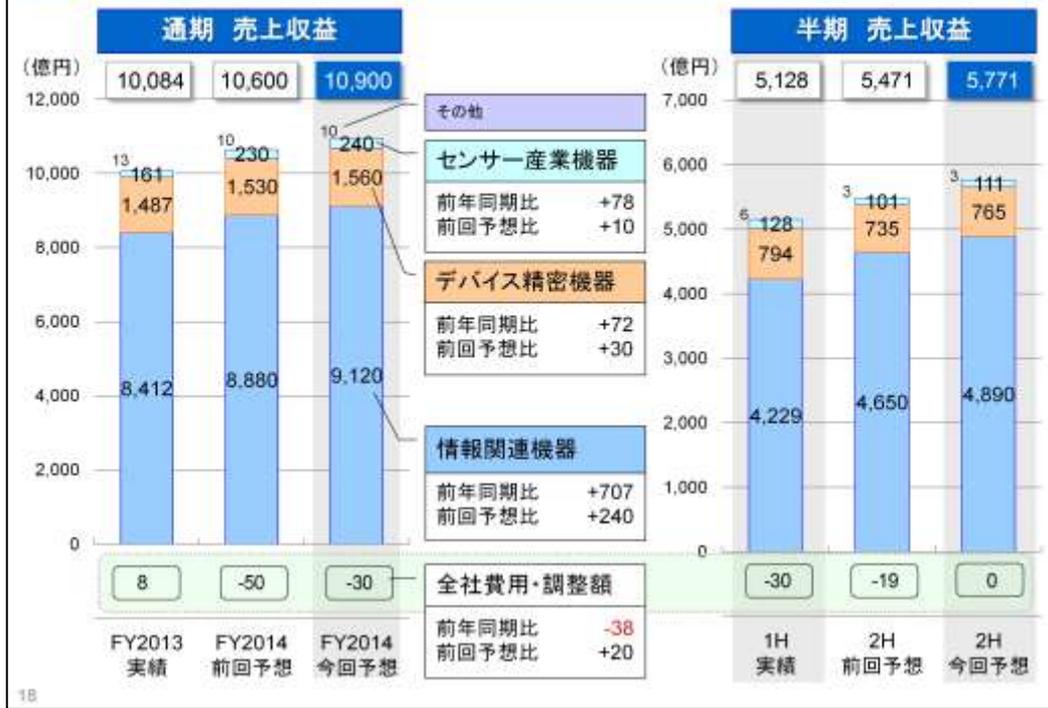
(億円)	2013年度		2014年度				前期実績比	前回予想比	
	実績	%	10/31予想	%	今回予想	%			
売上収益	10,084	-	10,600	-	10,900	-	+815 +8.1%	+300 +2.8%	
事業利益	900	8.9%	1,050	9.9%	1,050	9.6%	+149 +16.6%	+0 +0.0%	
営業利益	795	7.9%	1,320	12.5%	1,320	12.1%	+524 +65.9%	+0 +0.0%	
税引前利益	779	7.7%	1,320	12.5%	1,320	12.1%	+540 +69.3%	+0 +0.0%	
当期利益	844	8.4%	1,110	10.5%	1,110	10.2%	+265 +31.5%	+0 +0.0%	
EPS	472.03 円		620.50 円		620.50 円		今回予想 4Q為替レート前提 USD: 115.00円 EUR: 135.00円		
換算 レート	USD	100.23 円	102.00 円		109.00 円		為替感応度(1円円安の年間影響額)		
	EUR	134.37 円	137.00 円		139.00 円		USD	+約38億円	+約3億円
							EUR	+約12億円	+約8億円

17

### ■ 2014年度通期の業績予想

- 売上収益は、前回予想を300億円上回る1兆900億円、事業利益以下の各段階利益では、それぞれ前回予想を据え置き、事業利益は1,050億円、営業利益は1,320億円、当期利益は1,110億円。
- なお、第4四半期の為替レート前提は、USDを、最近の状況を鑑みて前回想定に対し15円の円安となる115円に見直す、EURは、足元では急激な変動があるものの、落ち着きどころが不透明なため、前回と同じ135円。
- 1円の円安による年間の事業利益への為替感応度は、前回の予想時と同じ、USDが3億円、EURが8億円。

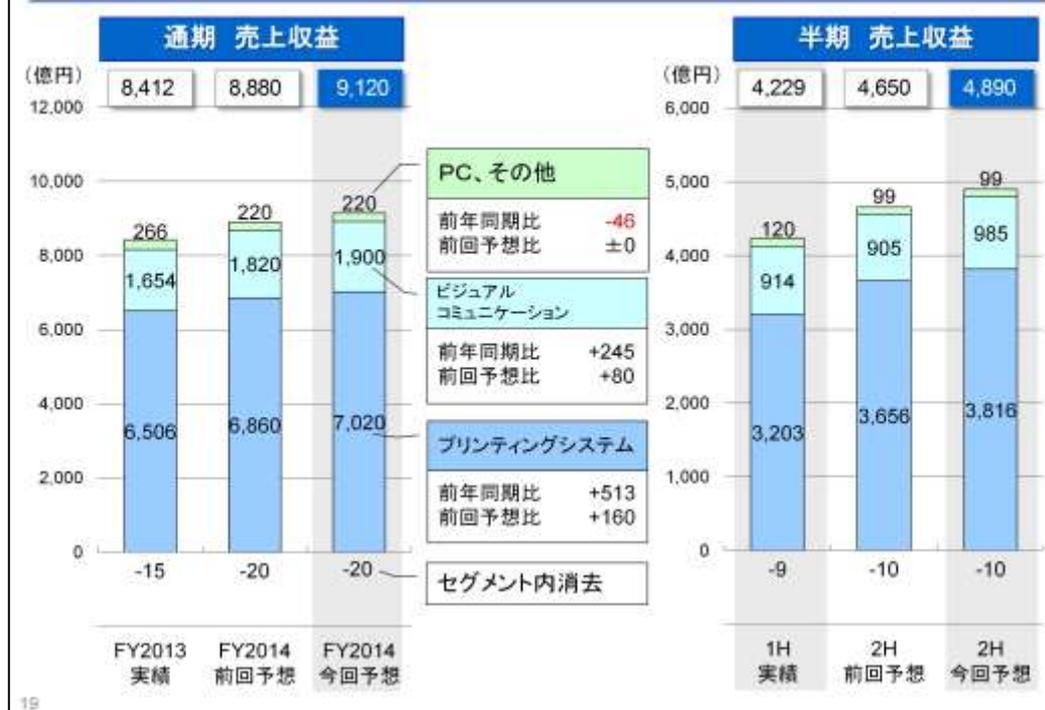
# 2014年度業績予想(売上収益) ▶事業セグメント別



## ■ 2014年度の事業セグメント別売上収益の予想、上期 / 下期別内訳

- 売上収益については、前回予想に対し、為替前提レートの見直しもあり全セグメントで上方修正を行い、連結合計でも上方修正。

## 事業別売上収益予想 ▶ 情報関連機器セグメント

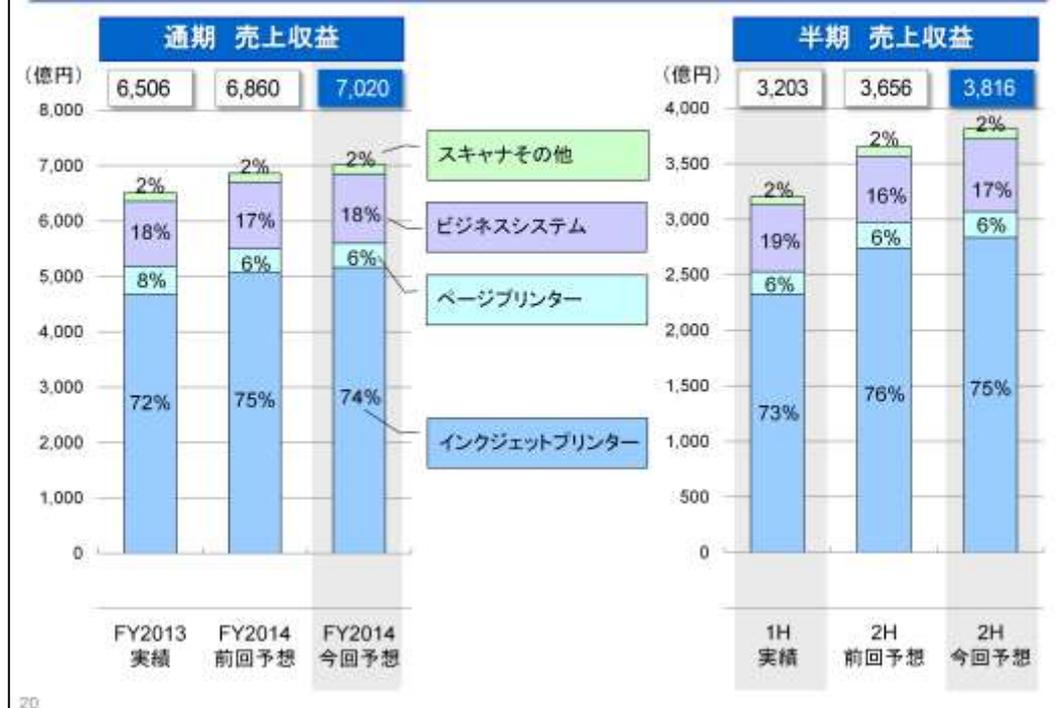


### ■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上収益予想の内訳

- ビジュアルコミュニケーションは、  
前回予想を 80億円上回る、1,900億円を予想。
- プロジェクターは、市場自体が通期では前年を3%程度上回る成長に転じる一方、特に欧米市場において価格競争が激化。  
第4四半期は、エントリー機から、超単焦点やインタラクティブなど高付加価値機までカバーした競争力のある幅広い製品ラインナップを生かし、通期では、引き続き市場の成長率を大幅に上回る、前年度比11%の販売数量増加を見込む。

## 事業別売上収益予想 ▶ プリンティングシステム事業

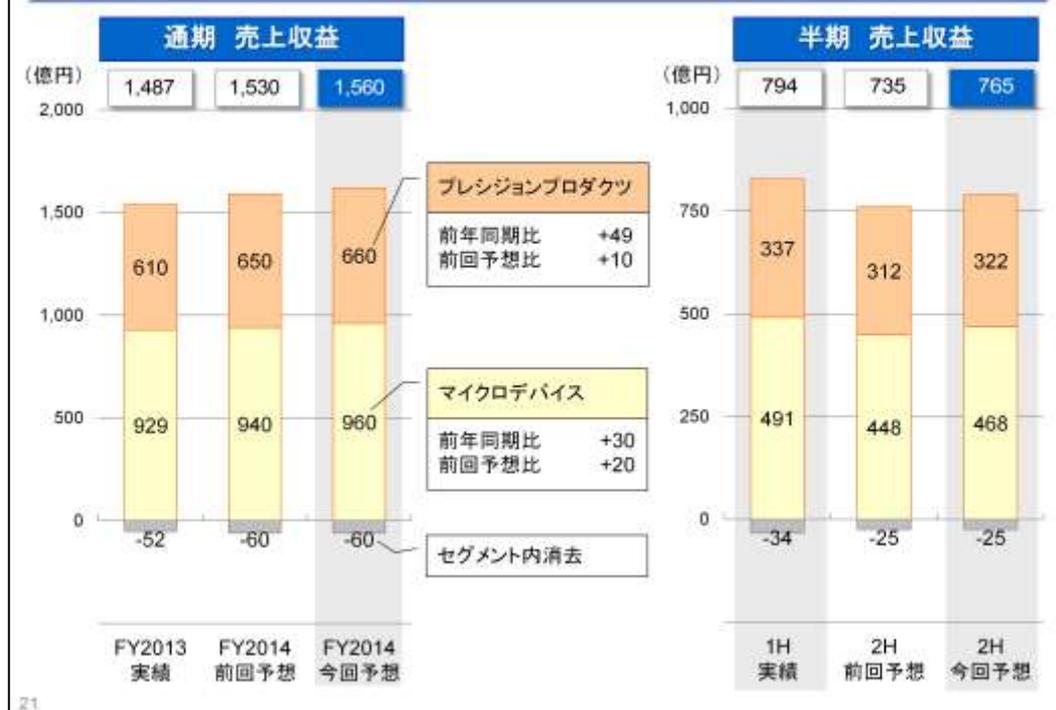
EPSON  
EXCEED YOUR VISION



### ■ プリンティングシステム事業の製品別売上収益予想

- 前回予想を 160億円上回る 7,020億円を予想。
- インクジェットプリンターは、引き続き、大容量インクタンクモデルの販売数およびオフィス向けプリンターの市場稼働台数(MIF)の拡大を進めるものの、先進国における競合他社の積極的な価格攻勢が継続すると予想されるため、第4四半期は会社全体の為替差益を原資とし、来年度以降の消耗品売上を考慮して、インクジェットプリンター本体の拡販を行うとともに、西欧における大容量インクタンクモデルやスマートチャージのプロモーション活動の強化を行う。
- 通期の本体販売数量については、第3四半期の状況を踏まえ、前年度比 4%の増加に見直し。
- ビジネスシステムは、足元の市場環境に大きな変化はない。POS関連製品において、北米で一部客先向けノンレシート用途の受注減が見込まれるものの、北米やアジア市場で新規の案件獲得を見込む。

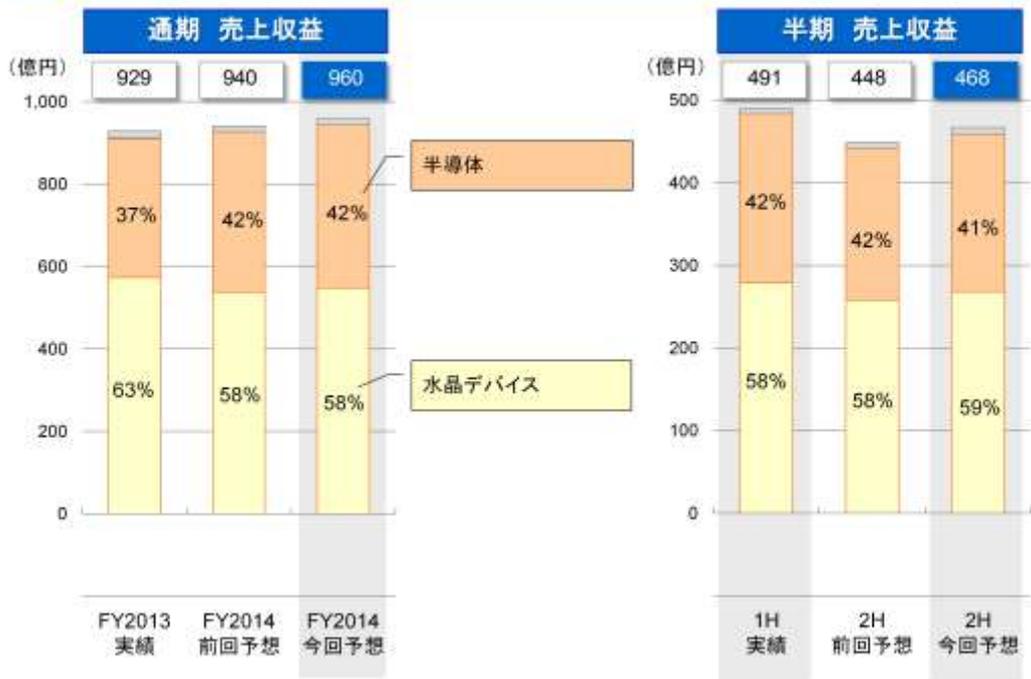
## 事業別売上収益予想 ▶ デバイス精密機器セグメント



### ■ デバイス精密機器事業セグメントの事業部門別売上収益の内訳

- 前回予想を 30 億円上回る、1,560 億円を予想。
- マイクロデバイスは、  
水晶で、民生向けの数量が減少するものの、産業向けの数量が増加し、  
半導体で、ほぼ計画通りの売上推移となるなか、  
為替の影響もあり、事業全体で通期の売上収益は前回見通しを上回る。
- プレジジョンプロダクツは、ウオッチにおいて、  
ムーブメントビジネスで円安を原資とした価格競争が見込まれるが、  
引き続きブランド品の高付加価値モデルを中心にした好調な推移が見込まれ、  
また、為替の影響もあり、通期の売上収益は前回予想を上回る。

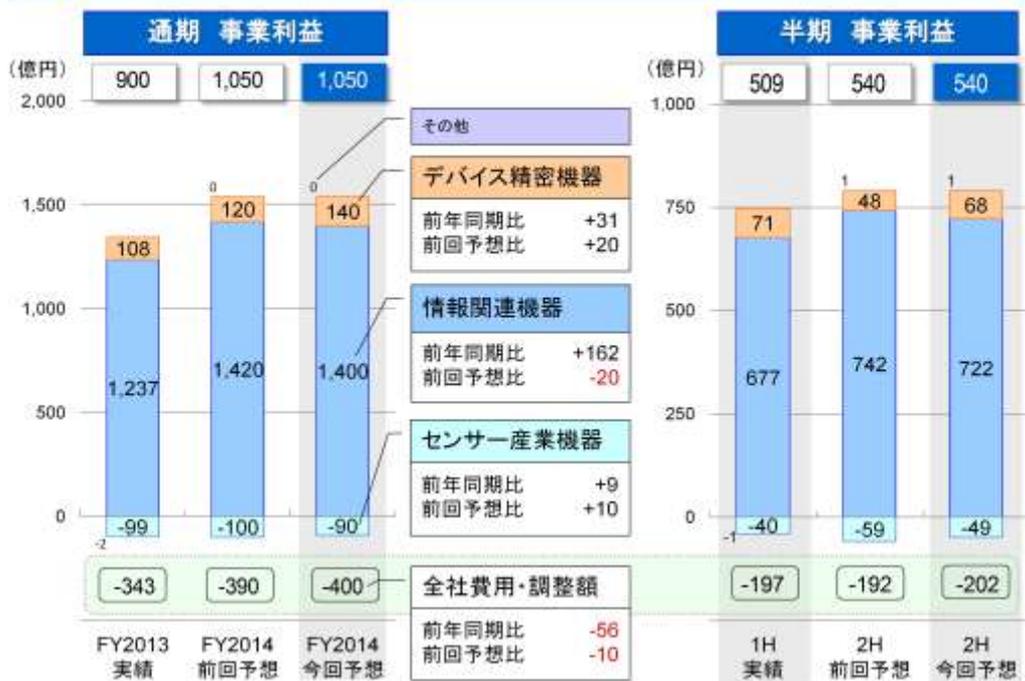
事業別売上収益予想 ▶ マイクロデバイス事業



22

■ マイクロデバイス事業の製品別売上収益予想の内訳

## 2014年度業績予想(事業利益) ▶事業セグメント別



### ■ 事業利益の事業セグメント別予想、上期 / 下期別の内訳

#### ➤ 第4四半期は、

売上収益が為替前提レートの見直しなどにより前回予想を上回るが、この為替差益を原資にして、足元の状況に対する対応を図るとともに、中期経営計画の進展状況に応じて、ビジネス領域における販売促進活動や新規領域におけるブランド価値向上のための投資を強化するため、通期の事業利益は、前回予想を据え置く。

## 設備投資・減価償却費予想



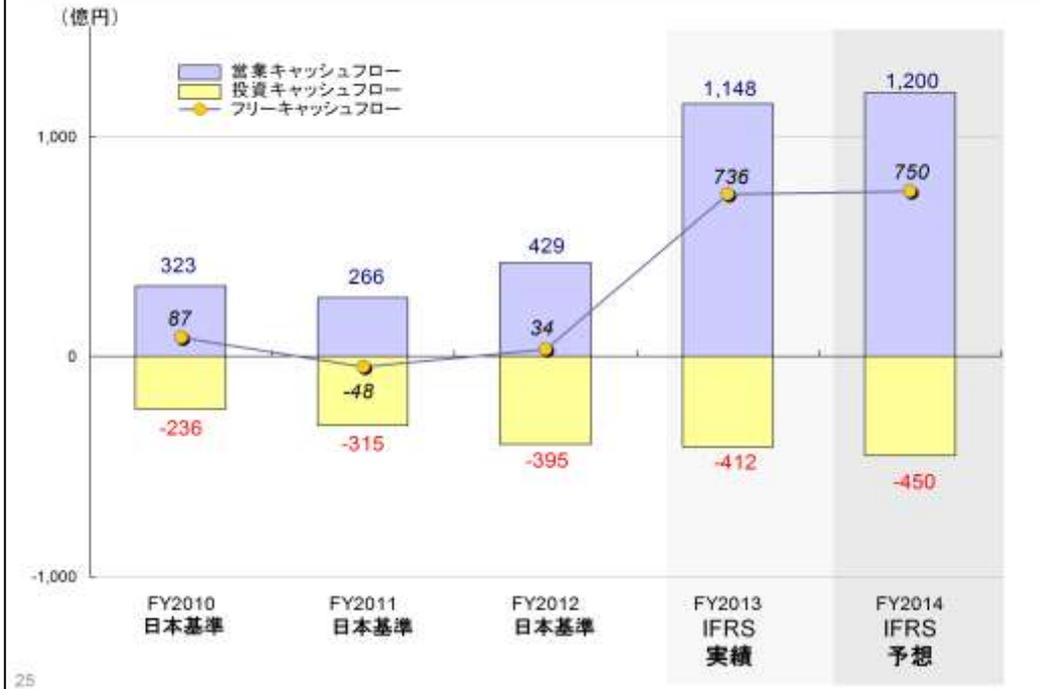
<セグメント別内訳>	FY2013実績		FY2014予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	268	273	320	310
デバイス精密機器	80	76	90	80
センサー産業機器	8	7	20	10
その他・全社費用	20	49	50	40

24

### ■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は、執行時期の見極めを行い、2015年度にスライド可能な案件もあったことから前回予想の500億円から480億円に見直し。
- 減価償却費は前回予想の440億円から変更なし。

## フリーキャッシュフロー予想

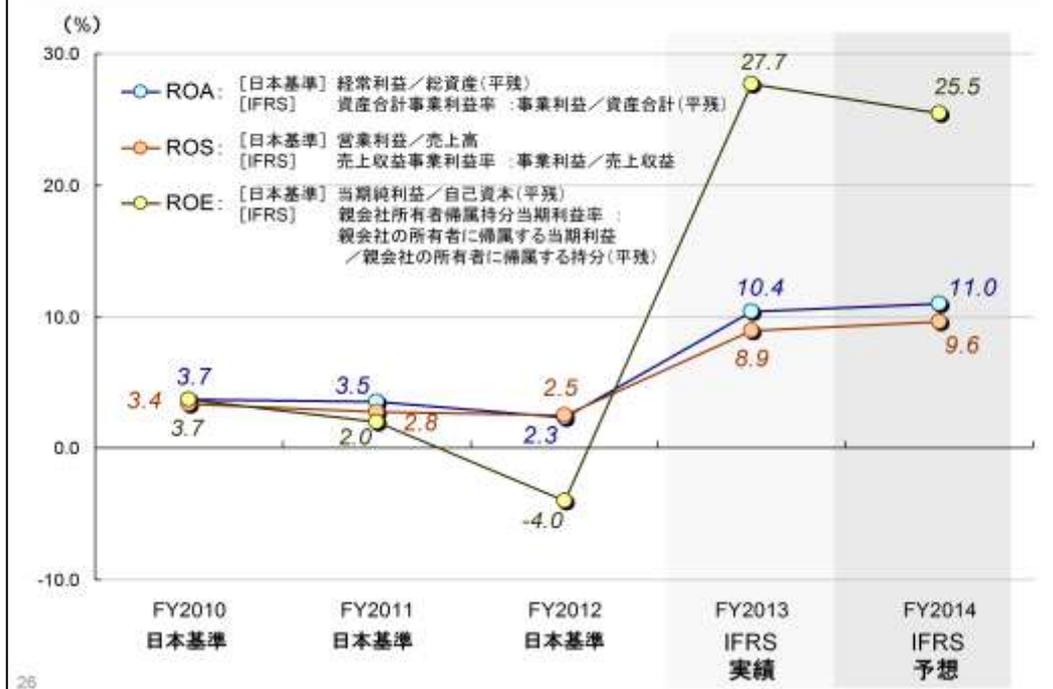


25

### ■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正、ならびに設備投資を見直した結果、  
営業キャッシュフローは、1,200億円、  
投資キャッシュフローは、450億円、  
フリーキャッシュフローは、750億円、  
を見込む。

## 主な経営指標の推移



### ■ 主な経営指標

ROSは 9.6%

ROAは 11.0%

ROEは 25.5%

### 配当予想の修正

狙い) 連結配当性向30%(特殊要因を除いた利益※ベース)の実現  
 年間配当予想 115円 (第2四半期末実績 35円/期末予想 80円)

<参考>

前回予想 年間配当 70円 (第2四半期末実績 35円/期末予想 35円)

前期実績 年間配当 50円 (第2四半期末実績 13円/期末実績 37円)

※当社の利益管理の基軸である事業利益から税金等として法定実効税率相当額を控除した金額を、当期利益から特殊要因を除いた利益と見なす。

### 株式分割

狙い) 株式の流動性を高め、投資しやすい環境を整備  
 普通株式1株につき2株の割合をもって分割

基準日 2015年3月31日 効力発生日 2015年4月1日

27

#### ■ 配当予想および株式分割

- このように当社の最大の商戦期である第3四半期業績が確定し、通期業績の見通しが明らかになるなか、資金創出や財務構造の強化が着実に進んでいることなども踏まえ、総合的に検討した結果、今期の年間配当額については、かねてから目標にしている連結配当性向30%に基づき、年金制度改定益等の特殊要因を除いた利益をベースに算出を行い、前回予想の1株当たり70円から、115円に修正。
- これにより、1株あたり期末配当額については、中間配当額35円を差し引いた80円に修正。
- また、現状、当社の株価が5,000円前後と相対的に高い水準にあることから、投資単位あたり金額を引き下げ、個人を中心とする投資家にとってより投資しやすい環境を整備し、投資家層の拡大を図ることを目的として、株式分割を実施。

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION